

令和6年度第1回 習志野市総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和7年2月12日(水)午後3時30分～午後4時30分
2 開催場所 習志野市庁舎3階 大会議室

3 出席者

【委員】

習志野市	市長	宮本 泰介
習志野市教育委員会	教育長	小熊 隆
	委員	高橋 浩之
		赤澤 智津子
		馬場 祐美

【説明員】

学校教育部	部長	島本 博幸
	次長	野村 健一
教育総務課	課長	早川 誠貴
	主幹	伊坂 尚子
学務課	課長	寺嶋 耕一
保健体育安全課	課長	荻原 洋
	主幹	藤代 薫
	主任指導主事	黒田 みのり
指導課	課長	利根川 賢
総合教育センター	所長	江住 敏也
生涯学習部	部長	府馬 一雄
	次長	芹澤 佐知子
社会教育課	課長	越川 智子
生涯スポーツ課	課長	忍 貴弘
	主幹	高田 賢
中央公民館	館長	伊東 尚志
菊田公民館	館長	竹口 正樹
中央図書館	館長	岡野 重吾
	主幹	勇 依子
こども部	部長	佐々木 博文
こども政策課	課長	奥山 昭子
	主幹	新井 理香
こども保育課	課長	志摩 豊
	主幹	松田 裕美
政策経営部	部長	菅原 優
(事務局)	次長	三角 寿人
総合政策課	課長	藤原 友哉
	係長	佐野 一徹
	主査	嶋崎 庄吾
	副主査	大淵 享子

- 4 議題 (1)習志野市教育大綱について
- 5 会議資料 【資料 1】習志野市教育大綱
【参考】習志野市教育大綱について
- 6 議事内容

宮本市長	開 会 開会にあたり、宮本市長より挨拶 出席委員は 5 名であるため、本会議は成立した。 議 事 日程第1、会議の公開について諮り、了承を得る。 日程第2、会議録の作成等について諮る。 会議録は、要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載した上で、本市ホームページ及び市役所グラウンドフロアの情報公開コーナーにおいて公開することについて諮り、了承を得る。 日程第3、会議録署名委員の指名について、赤澤委員の指名について諮り、了承を得る。 日程第4、協議について、(1)習志野市教育大綱について事務局より説明を求める。
宮本市長 高橋委員	藤原総合政策課長より、「【資料 1】習志野市教育大綱」について「【参考】習志野市教育大綱について」を用いて説明を行う。 ただいまの説明を受け、意見をいただきたい。 非常にバランスのとれた素晴らしい計画をこれまで実施しており、更に良くなっていくものと思う。 昨今、千葉県内で住みやすい市、人気のある市として習志野市がランキング上位で紹介されているのを目にし、大変誇らしく感じている。これは、「習うなら習志野」の精神と、教育面が充実していることが大きな要因であろうと思う。 これまで教育委員を6年間務め、様々な課題を指摘してきたが、1年、2年後には解決されてきた。職員の皆さんが有能で一生懸命に取り組んでいることがわかる。 その上で強いて言うならば、習志野市の計画は“課題をつぶす”ことを旨としたネガティブな計画になりがちである。せっかく実力のある市なのだから、全国に先駆け、習志野モデルとも言われるような、若い職員の

馬場委員	アイデアを採用するなど自由な提案ができるのではないか。 健康教育の分野でも、病気ばかりを取り扱いがちだが、最近は「ウェルビーイング」の考え方が取り上げられており、ネガティブなことをなくすのではなく、健康・幸福な状態、生きがい・やりがいを目指すことを考えるようになってきている。幼児、小学生、中学生、高校生が楽しく過ごせる良いアイデアを実践してほしい。 袖ヶ浦西小学校、袖ヶ浦東小学校のクラスが小規模になっているので、運動会は両校が共同で開催し、ライバル化してはどうかと提案したことがある。このような新しいことに実践し、全国を引っ張るような気概があっても良い。 私自身が習志野に育ち、習志野の教育を受けてきた。子ども達にも習志野の教育を受けさせたいと思ったことも、住み続けている理由の一つである。習志野の教育の良さを引き継ぎつつ、更に発展していくための次期教育大綱を策定していただきたい。今の子ども達が自分の子どもにも習志野市の教育を受けさせたいと思われるようなまちづくりをしていく必要がある。 (1)子どもが健やかに育つ環境を整備します におけるひまわり発達相談センターを利用して心配事が軽減した人の割合が目標値を達成していないとの説明があった。子どもの育ちについては様々な相談窓口があると思うが、その一つひとつに適切に対応できているか、数字だけではわからない部分もあるが、心配事が軽減されていないのであれば改善する必要がある。 相談者の立場で考えると、「まずは話を聞いてほしい」という方も多いと思う。相談時間の改善などの提案があったが、具体的な改善策について盛り込む必要がある。 (4)互いを認め合い尊重し合う教育を推進します について、大人も子どもも、社会で生きていく上で相互理解は欠かせないものであると思う。様々な主義主張、考え、見た目などの違いを認め合うことは、頭ではわかっていても難しい現実がある。そういったことが、極端に他者を排除する考えや行動、例えば学校でのいじめにつながったりする。いじめはなかなかゼロにできない現実がある中で、様々な対策や、互いを認め合うことの教育はしっかり取り組んできているが、多様性についての真の理解、相互理解とは具体的にどういうことか、お互いを認め合うことでどのような社会になるのか、このことを生徒に考えてもらい理解を深めてもらうような授業の展開を大綱に盛り込むことで、一步踏み込んでどうか。 市長が挨拶の中で次期基本構想の策定にあたり“交流”を重要視しているとのことであった。様々な他者との交流は相互理解につながるもの
------	--

赤澤委員	であるので、盛り込んではいかがでしょうか。 具体的に数字で目標を設定しているので、放課後児童会や保育所の待機児童数など、実績や評価すべき項目がわかりやすい。 一方で、子どもの育つ環境整備として、教員の働き方の整備が子どもへの安定した教育にもつながるので、取り上げてはどうか。ひまわり発達相談センターの相談体制について課題があるとのことだが、こちらも職員の働く環境という視点で改善点がないか検討する必要がある。 (4) 互いを認め合い尊重し合う教育を推進します については、これからの教育において非常に重要であると考えます。これは尊敬される人を育てることになり、その施策を示すことは、尊敬される市、誇らしく思える市につながっている。子育てがひと段落した後、市外に流出してしまう例も耳にするが、市に対して誇りを持つことは、具体的な行政サービスではできない、いつまでもこの市に住み続けたいと思う気持ちの源になるものと思う。その意味でも互いを認め合い尊重し合う教育は重要であり、市の方針を示す意義がある。次期教育大綱でも推進すべきと感じた。
小熊教育長	教育委員会事務局の責任者として、数値で示されている課題について申し上げたい。 子ども達の体力の低下については、何としても手を加えなければならないと感じている。学校現場において、先生と児童生徒が一緒に取り組まなくてはならないもので、部活動の地域移行と併せて進めていかなければならない。 食育に関連し、朝食を食べる児童の割合については、従前から課題となっており、引き続き様々な場面で働きかけていかなければならない。睡眠の問題と併せて取り組みたい。 公民館事業について、参加しやすい内容、利用者の多様化に対応する必要があると考えている。公民館は生涯学習の情報発信基地であるのでしっかり取り組みたい。 課題に目が行きがちにはなってしまうが、習志野市の児童生徒は“力”があると思っている。その“力”を発揮させ、輝くことができる、「一人ひとりが輝く教育活動」を推し進めていかなければならない。全国学力・学習状況調査において児童生徒の自己肯定感が全国、県下で比較してやや低い結果が得られている。自分に自信を持つことに焦点を当てた教育を展開していきたい。 そのためにも“交流”、人とつながっているという感覚を大切にしながら取り組んでいきたい。
宮本市長	私からも質問と意見を申し上げたい。 確認だが、①教育大綱において“教育”と“学び”という言葉がある。

奥山課長 (こども政策課)	“学習”も含めて言葉の使い分けはどのようにしているのか伺う。 ②ひまわり発達相談センターの実績について詳細に説明いただきたい。 ②について、電話による最初の連絡から、初回相談までに、相当な時間を要してしまっていることが課題であると認識している。ひまわり発達相談センターは就学前児童の家庭を、総合教育センターは学齢期の家庭を担当することで、分担による業務改善を図っている。 また、初回の相談対応をする職員を増員した。
早川課長 (教育総務課)	①について、“教育”と“学び”について、教育は受動的で、学びは能動的なものと認識している。次期教育大綱、次期教育振興計画の策定にあたり、より整理・検討をしたい。
高橋委員	学校教育の経験による私の解釈では、“学び”と“学習”は同じことで、主語は子どもになる。“教育”は学校や教員が主語になるので、その点で違っている。 教育大綱にあっては、“学び”は生涯にわたる学び、“教育”は教師や学校に限らず一人ひとりの学びを支えるもの、として使い分けられていると考える。
宮本市長	そういったことも意識しながら次期教育大綱を策定したい。 「互いを認め合い尊重し合う教育を推進します」とあるが、教育だけではなく、能動的に自ら学習する面も必要ではないかと考える。 ひまわり発達相談センターについては、電話の問い合わせから初回の相談までお待たせしてしまったことが要因としては大きい。 目標値の設定の仕方、行政評価の手法についても課題があるように感じた。学力や体力に関する目標値はどのように設定したのか。
荻原課長 (保健体育安全課)	全国平均との比較を目標値として設定したところだが、新型コロナウイルスの影響で全国的に体力は低下している。目標値はコロナ禍の前に設定していることから、実態とずれ、達成が難しくなっている。
宮本市長	朝食を食べる児童の割合について、昨今は朝食を食べるかどうか、というよりもその質が問題になっている。病気の予防という観点からも朝食に菓子パンでは良くない。こういった質の観点からも検討が必要だ。 教育大綱ではなく行政評価に対する課題になってしまうが、公民館年間利用者数について、延べ人数では数値の増減が正確に把握できない。図書館の利用登録率のように、実人数とすべきである。 「LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランス ジェンダー)」という言葉を知っている人の数値の把握方法が、男女共同参画週間事業の来場者へのアンケート結果では、高い数値が得られるのは当然である。 「女性の生き方相談」事業を知っている女性の集計にあっては、事務局説明のとおり、事業の対象者が毎年異なるため、実績値に差が出て

小熊教育長 宮本市長 宮本市長	しまっている。 平和の大切さがより理解できた人の比率についても、被爆体験講話受講者に対するアンケート結果から分析しているため、当然の数値である。 このように、行政評価に係る目標値の設定方法、分析方法について改善すべきである。 最後に、習志野高校の今後の発展についても考えたい。志願倍率が低くなっている中、習志野市への関心を高めるという意味で、習志野高校の生徒における市民の割合は25%以下である。つまり、75%以上の生徒に対し、習志野市をアピールする場所になっているということである。 総合教育センターでは義務教育を中心に研修カリキュラムを策定し、研究が行われている。しかし、総合教育展覧会には幼稚園・こども園も出展しているように、義務教育外ではあるが、習志野高校も位置付けて連携を図っていただきたい。習志野高校の教職員も習志野市の職員であるということを改めて念頭に、これからの教育大綱を検討したい。 御指摘のとおり、義務教育に限らず習志野高校も含めながら、教育委員会や市民など様々な主体が連携して、しっかり運営していきたい。 他に意見等はあるか。 (意見等なし) それでは、本会議におきまして頂戴した御意見等を踏まえ、次期教育大綱の策定に向けて検討をはじめます。 また、関係課においては、各委員からの意見を受け止め、それぞれの施策に反映すること。 以上で、日程第4を終わる。 日程第5、その他として、(1)次期習志野市教育大綱の策定について説明を求める。 藤原総合政策課長より、 ・令和7年度は、令和8年度を始期とする次期教育大綱の策定に向け、8月と2月の教育委員会会議開催後、合わせて2回の会議を開催する予定であること。 ・同じく令和7年度に策定を予定している教育振興基本計画と足並みを揃えること。 ・次回会議では次期大綱の素案をお示しすること。
--------------------------------------	--

宮本市長	について説明。 ただいまの説明について、質問や意見はあるか。 (意見等なし)
宮本市長	日程第5を終わる。 閉 会